探訪 111

ながわ

那珂川町郷土史研究会

裂田溝38　五郎丸地区周辺

裂田溝に架かる橋-55を過ぎたところに、取水口-㉘があります。ここには巻き上げ式の大きな堰があり、溝をまたぐ形で2本の支柱が立ち、遠くからでも確認することができます。この堰より下流域は田畑も少なくなったため、水路は灌漑用水路としての役割から、雨水幹線用へと移行しつつあります。五郎丸地区は、昭和50年前半に区画整理が終わり、その後住宅・商業地域として大きく発展しています。この地区の南側一帯は素晴らしい田園風景が広がり、南に「岩門城跡」「安徳台」、更に脊振山に源を発する歴史を秘めた筑紫の峰々が北方へと連なり、田園地帯がすっぽり挟まれた平野が形成されています。これから田植が始まり、日毎に生長する緑の水面が、やがて黄金色に波打つ収穫期までの移りゆく彩りは素晴らしいものです。また、四季折々の山並みの雄大さを一望できる一押しのスポットであり、里山の自然を体感できるお勧めの場所です。

五郎丸地区の農家が多かった頃、すべての田んぼの水は裂田溝から引き込んでいました。溝から取水される水路にはそれぞれに「イカリ郷溝」「一本松溝」「前田溝」などの名前がつけられています。なかでも「前田溝」から引き込まれる末端の田んぼは水がかりが悪く、田植が遅れていたそうです。ある94歳のおばあちゃんは「ある時、おじいさんがどこからか水車を買ってきて、水路に取り付けられました。夜明けを待って、水車を踏んで水を送りました。水車は一間ばかりある大きさで、踏み外さないよう力を入れて踏みました。戦争中は牛を使って田も鋤きよりましたよ」と、当時の水の苦労や農作業の厳しさを語られる姿には感銘を受けました。

次の橋-56の道路をへだてた西側に「橋地蔵」が祀られています。昔、裂田溝の石橋として渡してあった石で、ある時、この石橋の梵字に気付いた遍路さんが、梵字のみごとさを称え、村人にこれを祀るように話しました。その後、ここに安置されたと言われています。亀の甲らの形をした石には、梵字が刻んであったそうですが、今では判読できません。

裂田溝をこのまま直進すると、取水口-㉙があります。側溝内は2本の水路で区切られ、すぐ先で町道道善・仲線を横切り、西側の五郎丸区へと入ります。ここには「植安命」を祀る「天神社」があります。造られた年代は定かではありませんが、天神社の御神体と鳥居を一時現人神社にお預かり願ったことがありました。戦後、世の中が落ち着いてきた頃、御神体のお帰りを願いその大役にたずさわる人が選ばれました。選ばれた人は地元の男子2人で、早朝3時、日佐江の汲ん場で禊を行い、白装束で身を整えて現人神社まで行き、御神体を箱型の輿に乗せて2本の長柄で担いでお迎えし、明るくなってから他の男子2人が鳥居を馬車に乗せて運んできたそうです。

この日から祭礼は10月9日と決まり、今日まで続けられています。

境内に「田壱段弐畝歩　寄贈藤崎甚五郎」の碑があります。甚五郎翁は生前、安徳村はもとより、旧那珂郡の発展に尽力された人で、故郷の五郎丸に田を寄贈されました。村では田からあがる収益金を、天神社の祭典の費用や修理費などに活用しました。後年、村人たちがその遺徳を偲んで「顕彰碑」を建てました。昔は甚五郎翁の生家の庭で、五郎丸区ご自慢の「五郎・十郎」を描いた幔幕を張り巡らせて、甚五郎祭りが盛大に行われていたそうです。現在は「天神社」のおこもりと、4月23日・7月23日に「法華経」様祭りが区の行事として行われています。境内には天保5年（1834）建立の「猿田彦大神」や「七天神」が祀られています。ここより南側の田の中には、「塞の神」を祀る祠があります。

次号は、安徳北小学校周辺を紹介します。

この年が見納めならむ　公民館の一本桜は歩道の犠牲　照子

※平成20年春に詠まれた歌。

コースメモ

126. 取水口-㉘ 転倒堰
↓
127. 橋-56（橋地蔵前）
↓
128. 取水口-㉙ 五郎丸集落への水路と巻き上げあり
↓
次号へ　松木（安徳北小学校周辺）

史跡メモ

- 橋地蔵（高さ2m 幅1m60cm）
- 子安観音（那珂川八十八ヶ所83番札所）
- 薬師如来（那珂川八十八ヶ所82番札所）
- 七天神
- 天神社（五郎丸）
- 猿田彦大神（天神社境内）
- 藤崎甚五郎碑（天神社境内）
- 聖観音（那珂川八十八ヶ所81番札所）
- 水車跡（足ふみ）
- 塞の神（那珂の森保育園前）

藤崎甚五郎翁
（肖像画　藤崎寿人氏所蔵）

天保10年（1839）生まれ。大正7年（1918）80歳逝去。
生前、安徳村はもとより旧那珂郡の発展に貢献され、生まれ故郷の五郎丸に私有田を寄贈されました。また、今回の調査で下梶原耕地整理委員長として、現地の工事指揮にあたられていた貴重な写真も発見されました。

天神社（五郎丸）

祭神は植安命（はにやすのみこと）。社殿は間4間・入り2間半。昭和30年建立。鳥居には明治20年戊子（つちのえね）の刻字があります。境内には「猿田彦大神」があり、右肩に天保五年、左肩に三月吉辰の文字が刻まれています。

橋地蔵 高さ2m 横幅1.6m

橋地蔵は、安徳小学校の西側を流れている裂田溝に架かっていた石橋だったと言われています。古老の話によれば、現在小学校の裏門に架かる橋-55の場所に架かっていたのだそうです。

「田壱段弐畝歩　寄贈　藤崎甚五郎」

この碑は甚五郎翁の遺徳を偲んで、五郎丸区が建てた顕彰碑（けんしょうひ）です。

塞の神

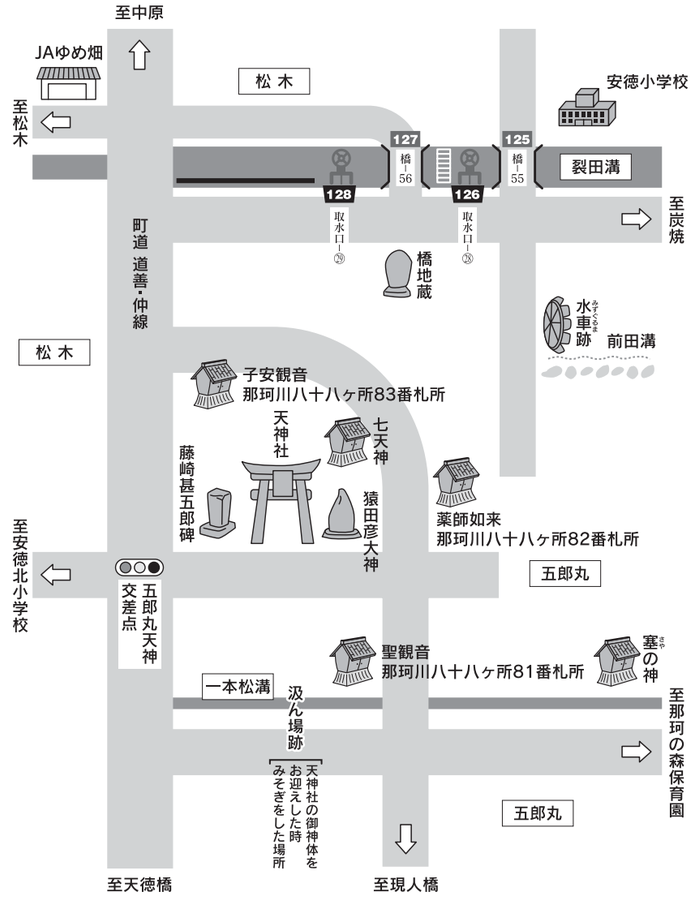
塞の神とは、村境や分かれ道にあって、通行人を守り悪霊、悪疫などの進入を防ぐ神様です。那珂川町では西畑にもう一体ありましたが、道路拡張のため今は無くなっています。昔、ここに脊振山頂から見渡せるみごとな一本松が立っていましたが、枝の切りすぎで枯れてしまいました。この側を流れる水路を「一本松溝（いっぽんまつみぞ）」といいます。

前田溝と水車跡を案内していただいた岩崎ミツエさん

裂田溝の取水口-㉗から送水される「前田溝」は、末端の田んぼまでの距離が長く、水の確保に苦労されたそうです。

裂田溝　取水口-㉘

安徳小学校西側にあります。ここには巻き上げ式の水門が設置されています。側溝の壁面から高くせり出した巻き上げ用の支柱が水門の開閉をする機械です。田植時の水量の調節だけでなく、火災の時には水を貯め、大雨の時には水門を開けて水を流すなど地域の防災の役割も担っています。

七天神

五郎丸に「山の神」「川の神」「田の神」「子どもの神」「勝負の神」「火の神」「元締の神」の七天神があります。この七天神はもと天神前（安徳北小学校運動場南側）にありましたが、ほとんどが百姓一揆のとき打ち壊されたものと見受けられ、御神体は著しく損傷しています。政本に3体、屋敷の内に2体、扇の前に1体、天神社境内に1体と分散されたものを、昭和29年現在の公民館敷地内に合祀しました。